



2014年11月 第12巻第11号

今月の予定

### かく語りきー聖人の言葉

「神はあらゆる道を通じて悟ることができる。すべての宗教が本物だ。大切なのは屋根に登ることだ。石の階段でも木の階段でも竹のはしごでもロープでも、屋根に登ることができる。竹の棒でよじ登ることだってできるのだ」  
(シュリー・ラーマクリシュナ)

「真理への道を進むのに犯しうる間違いは二つしかない。最後まで行かないことと、歩み出さないことだ」  
(ゴータマ・ブッダ)

### 今月の目次

- ・かく語りきー聖人の言葉
- ・2014年12月の予定
- ・2014年のカーリー・プージャ、逗子協会本部にて開催
- ・マハーラージ、インドに帰省
- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

### ・ 生誕日 ・

- スワミー・トゥリーヤーナンダ  
1月4日(日)
- スワミー・ヴィヴェーカーナンダ  
1月12日(月)
- スワミー・ブラフマーナンダ  
1月22日(木)
- スワミー・トリグナティターナンダ  
1月23日(金)

### ・ 行事 ・

- 1月1日(木・祝) 11:30～  
カルパタル  
逗子協会→鎌倉大仏→カトリック雪ノ下教会→鶴岡八幡宮  
11:30 スワミーより新年のごあいさつ、朗読、輪読など  
14:00 協会より参拝に出発  
お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428
- 1月3日(土) 15:00～  
ホームレス・ナーラーヤナへの奉仕活動  
寿町での越冬炊き出しにつき 15:00 に

現地へ集合してください

お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

\*男物中古衣料品、ひげそり、靴下、タオル、石鹸、歯ブラシ、等も常時募集しております。(スーツ、オーバーコート、靴、カバン等、ビジネスマンが身につけるようなものは受け付けられません。判断の基準は、ホームレスの方々が着用するようなものを想像してください)

1月3日(土) 13:30～ ※時間が変わりましたのでご注意ください

東京・インド大使館例会

講義：バガヴァッド・ギーター (無料)

場所：インド大使館 : 03-3262-2391

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

1月17日(土) 14:00～ 新規開講

ウパニシャッド スタディークラス

講義：ウパニシャッド (無料)

場所：インド大使館 : 03-3262-2391

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

1月18日(日) 10:30～16:30

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祭

場所：新館アネックス

<プログラム>

06:00 マンガラ・アラティ、朗誦、賛歌

10:45 礼拝(プージャ)、アラティ、花奉獻(プスパンジャリ)

12:45 昼食(プラサード)

14:45 輪読、講話、賛歌、瞑想

16:30 お茶

18:15 夕拝、賛歌

\*当日のご浄志は謹んでお受けいたします。

皆様のお越しをお待ちしております。

1月11日(日)、18日(日)、25日(日)

ハタ・ヨーガ・クラス 14:00～15:30

※日程は変更することもあります。

場所：本館

\*体験レッスンもできます。

お問い合わせ：080-6702-2308 (羽成淳)

24(土) 13:30～17:00

関西地区講話

場所：大阪研修センター

内容：「バガヴァッド・ギーターとウパニシャッドを学ぶ」

\*詳細はホームページの「スケジュール」-「特別プログラム」をご覧ください。

## 2014年のカーリー・プージャ、逗子協会本部にて開催

10月23日(木)、日本ヴェーダータ協会では逗子本部別館(アネックス)にて午後7時から9時30分までカーリー・プージャを開催しました。

東京や東京以遠から電車でお越しになる方が帰路の電車に間に合うようプログラムをできるだけ短時間にし、夕

食のプラサードが午後9時30分に終了するように計画されました。協会の他のイベント同様、今回のプージャも事前の企画・準備から当日の運営まで多くのボランティアの方々にご協力いただきました。心より感謝を申し上げます。



アネックスの1階には祭壇が設置され、祭壇背部の壁には深紅の地に金糸やスパンコール、インドの伝統的な模様の装飾が施された美しい布が飾られました。祭壇の上段には、中央にカーリー女神の御写真とその両脇にシュリー・ラーマクリシュナとシュリー・サーラダー・デーヴィーの御写真が祀られました。写真にはそれぞれカーネーションの花輪（ガーランド）が首飾りのように掛けられ、上縁の中央にダリアが一輪飾られました。そして、果物やお菓子などの供物を盛りつけた皿が、赤、ピンク、黄色とあでやかに咲き誇るバラやユリ、ラン、カーネーション、ダリアなどの花束と一緒に祭壇に供えられました。

祭壇に向かって部屋の右隅には儀式用の台が設置され、礼拝（プージャ）の道具が準備されました。午後7時過ぎ、スワミー・メーダサーナンダ（マハーラージ）がプージャを開始しました。儀式の助手（タントラダラク）は今年もアニルバン・ムケルジー

（Anirban Mukherjee）さんが務められました。マハーラージはマントラを唱えながら手で様々な印相（ムードラ）を結び、花などの供物を器の中に捧げました。



ほら貝と鐘の音が鳴り響く中、地球の五大構成要素であるエーテル、空気、火、水、土を象徴する、炎、牡牛の尾でできた扇、織物などが祭壇の御写真に捧げられました。プージャの最後に、シャンティさん（泉田香穂里さん）のリードで参加者全員でカーリー母神への賛歌「サルヴァ・マンガラ・マンガリーエ（Sarva Mangala Mangalye）」を斉唱しました。

続いての花の礼拝（プシュパンジャリ）では、全員に花のつぼみと葉が配られ、マハーラージの先導でカーリー

母神に捧げるマントラを皆で詠唱しました。そして、次の護摩焚き（ホーマ）をできるだけ早く始められるよう、数人ずつ一緒に祭壇に花を捧げました。

参加者が席に戻る間に儀式台上ではホーマの準備が進められました。護摩木が中に組み込まれた護摩炉が設置され、炉の脇に花や葉などの供物が置かれました。マハーラージが参加者に沈黙をお願いし、ほら貝の音と共にホーマが始まりました。マントラを唱えながらマハーラージは護摩炉の中に花を置き、ギーを染みこませた火種用の護摩木 2 本に火をつけて護摩炉にくべました。さらに、マントラを唱えながら花や線香、果物の小片、ギーに浸した葉などを次々と炎の中にくべていきました。

マハーラージが供物をくべる間、参加者は「Ma Kali」のマントラを 108 回唱えました。護摩木が燃え尽きていく中、火が絶えないよう炉の中にギーや葉が足されていきました。最後に、マハーラージとタントラダラクは立ち上がって残りの供物とギーをすべて火にくべ、再び座りました。そして、マハーラージは銅の器の中でヨーグルトと水を混ぜて手ですくうと、護摩炉の炎に何度も振りかけました。火はシューシューと音をたて煙を上げながら消えていきました。マハーラージは護摩炉から灰を取り出してギーと混ぜ合わせ聖灰（ビブーティ）にしました。

そして最後の祈りを捧げると、マハーラージは台から下りて祭壇の前にひれ伏しました。続いて皆に、列を作って聖灰をいただく準備をするように伝えました。マハーラージは、初めに祭壇の御写真の額にそれぞれ聖灰を塗りつけ、次にタントラダラクに、そして列になっている参加者ひとりひとりに聖灰を塗りつけました。



参加者は聖灰をいただくと、本館に移動してプラサードの夕食の席に着きました。



プージャとホーマは、予定の時間を少し超過したものの無事終了しました。100 人を超える参加者の中には、電車に間に合うよう急いでプラサードを済ませてお帰りになる方もいらっしゃいま

した。

## マハーラージ、インドに帰省

(2014年9月25日～10月19日)

(協会ホームページにウツタルカーシー訪問時の写真を掲載)

マハーラージは、2014年9月25日～10月19日にインドに帰省し以下の地を訪問しました。

9月25日～27日 ニューデリー：ラーマクリシュナ・ミッション

9月28日～10月6日 カンカール (ハリドワール)：ラーマクリシュナ・ミッション・ウツタルカーシー

10月7日～10月15日 ヴァラナシ：ラーマクリシュナ・ミッション

10月16日～18日 ベルル・マト

10月19日 エア・インディアのフライトでニューデリーを出発、成田へ

10月20日午前 成田空港着



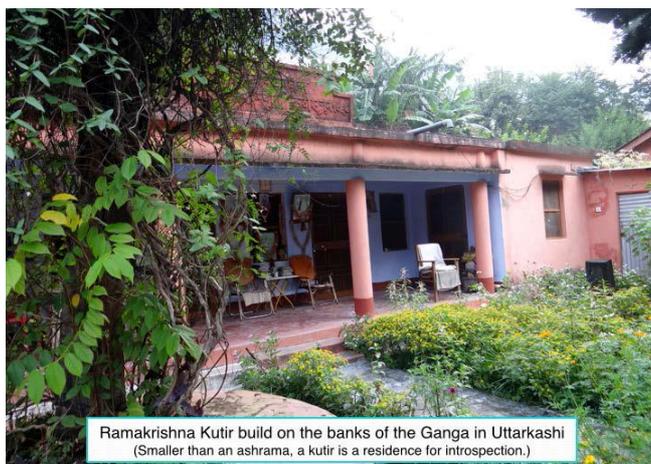
Swami Medhasananda's technique studied the kitchen at the Kutir



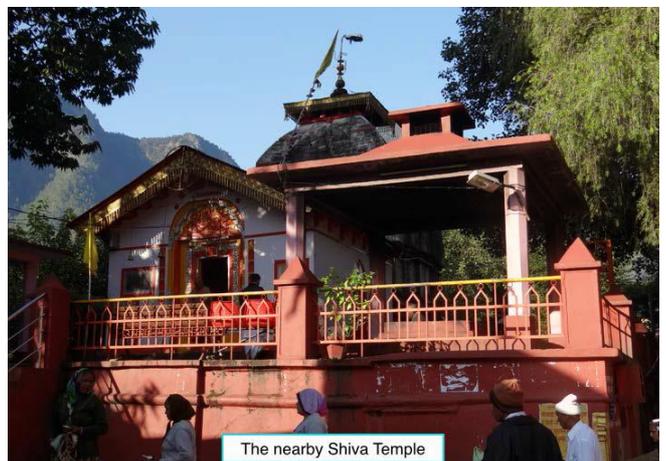
Students from the Japanese 'Jinen' Yoga group enjoy breakfast at the Kutir



Worshipping Shiva



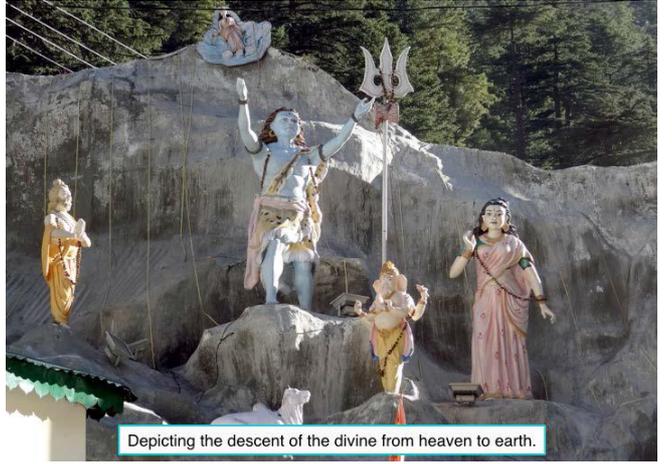
Ramakrishna Kutir build on the banks of the Ganga in Uttarkashi  
(Smaller than an ashrama, a kutir is a residence for introspection.)



The nearby Shiva Temple



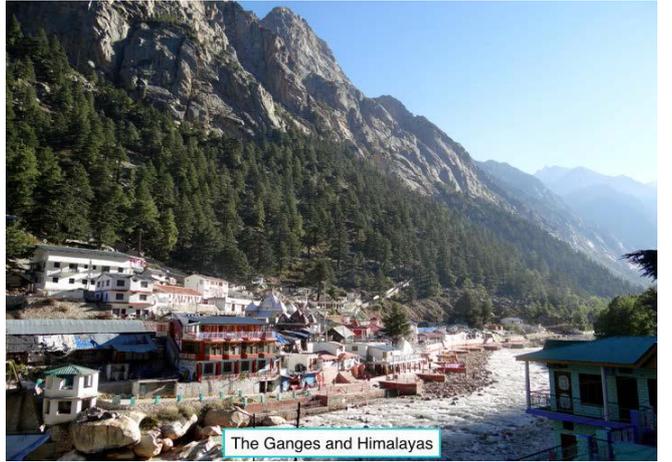
Mother Durga Temple at Uttarkashi



Depicting the descent of the divine from heaven to earth.



Swami Medhasanandaji visits with Swami Premanandaji of the Shivananda Ashrama Uttarkashi



The Ganges and Himalayas



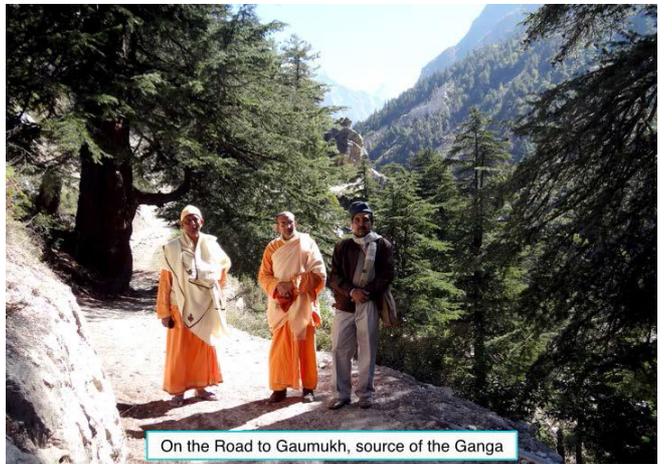
Visiting with Swami Yogaswarupanandaji



Viewing the Ganga River



Temple of Goddess Ganga at Gangotri



On the Road to Gaumukh, source of the Ganga



## 忘れられない物語

### 三つの人形

当地を治める一族を称える特別な祝日に、賢者が王子に三つで一揃いの小さな人形を贈った。王子はこの贈り物に喜ばず皮肉めかして言った。「人形をくれるなんて、僕は女の子だってこと？」

賢者は言った。「これは未来の王様になる方への贈り物です。よく見てごらんください、どの人形も耳に穴が開いているでしょう」

「それって何か特別なことなの？」

賢者は王子に一本の糸を渡した。「人形を一つずつ手にとって、この糸を耳の穴に通してみてください」

好奇心をそそられ、王子は一つめの人形の耳に糸を通した。糸は反対側の耳から出てきた。

「これはある種類の人を表しています」賢者は説明した。「このような人には何を言ってもすべて反対側の耳から出て行ってしまいます。片方の耳から入ってもう片方から出て行く。言われたことを自分の中に取り入れれないのです。さあ、二つめの人形に糸を通してごらんください」

王子が二番目の人形の耳に糸を入れると、糸は口から出てきた。賢者は言った。「これは二番目の種類の人です。このような人に何かを話すと、その人から皆に伝わります」

人形の持つ意味に興味湧き、王子は三番目の人形を手に取りその耳に糸を入れ始めた。途中で糸は動かなくなりどこからも出てこなかった。「これが三番目の種類の人です。このような人に何を話しても自分の中にしまい込むだけで、決して外には出さないのです」と賢者は言った。

「どんな種類の人が一番いいの？」王子は尋ねた。

賢者は答えとして四番目の人形を手渡した。渡された人形の耳に王子が糸を通してみると、反対側の耳から糸が出てきた。賢者は言った。「もう一度やってみてください」

王子がもう一度耳に糸を入れると、今度は口から糸が出てきた。そしてもう一度やってみると、糸は中で止まって外に出てこなかった。

賢者は言った。「これが最も良い種類の人です。信頼できる人間とは、人の言うことを聞くべきでない時、黙っているべき時、自分の意見を言うべき時をそれぞれ理解しているのです」

(作者不詳)

### 今月の思想

「思慮深い質問は、知恵の半分に等しい」

(フランシス・ベーコン)

**発行：日本ヴェーダーンタ協会**

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)